

真鶴町立遠藤貝類博物館 「海の学び」からはじめる持続可能地域を目指したソーシャルイノベーション」

実施期間：2023年5月15日（月）～2024年4月30日（火）



【事業の内容・目的】

■真鶴町立遠藤貝類博物館が2021年度から「海の学びミュージアムサポーター」の支援を受け、地域のNPO法人、町内漁協、観光協会をはじめとする海に関わるステークホルダーと町役場関連部署が参画する「海を学び、海に親しむ場づくり」協議会を主催し、地域資源である海の持続可能利用に向けた海辺の利用ルール策定を目指す事業である。「海の学び」を基盤に、地域の環境リテラシーと環境への理解を高め、地域資源として活用するまちづくりの実現に向けた3つの事業を実施した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

活動の様子

1. 持続可能な海辺利用を目指した地域づくり

①役場内ワーキンググループ及び「海に学び、海に親しむ場づくり」協議会の開催

【開催日時参加者等】

- ・ 第一回役場内ワーキンググループ 参加者 9人
2023年10月16日(月) 13:15 ~ 14:15
場所: 町民センター第3会議室
- ・ 第一回海に学び、海に親しむ場づくり」協議会 参加者 12人
2023年11月1日(水) 13:15 ~ 16:00
場所: 真鶴町役場車庫上会議室
- ・ 第二回役場内ワーキンググループ 参加者 8人
2024年2月7日(水) 10:30 ~ 12:00
場所: 町民センター第2会議室
- ・ 第二回「海に学び、海に親しむ場づくり」協議会 参加者 12人
2024年2月19日(月) 15:00 ~ 16:30
- ・ 第三回役場内ワーキンググループ 参加者 8人
2024年3月18日(月) 15:00 ~ 16:00
場所: 町民センター第2会議室
- ・ 第三回「海に学び、海に親しむ場づくり」協議会 参加者 10人
2024年3月19日(火) 15:00 ~ 16:30
場所: 町民センター第2会議室

【活動内容・目的】

- 昨年度に引き続き、町内の海に関わる事業者と町役場関連部署などで設置している「海に学び海に親しむ場づくり」協議会を3回開催し、海辺の持続可能利用に向けたルールの策定、課題等についての議論を行った。
- 昨年度作成した、海辺の利用ルール策定の基盤となる「真鶴の海辺の基本的考え方(案)」について、町民や役場職員からの意見を反映した完成版を作成した。



町役場内ワーキンググループを通して、町を支える行政職員に向け真鶴の海の現状及び課題意識の浸透を図った。また、協議会で話し合う内容について、事前に町役場職員と意見、情報の交換を行い、協議会での議論の充実化を目指した。



真鶴の海辺の持続可能な利用に向け、町内漁協、観光協会、大学、マリンレジャー事業者、町役場、NPO 法人、博物館で構成される「海に学び、海に親しむ場づくり」協議会を開催した。本協議会では、真鶴の海辺の持続可能な利用に向けた取り組みについて議論した。特に、真鶴の海辺の利用ルール及び、このルール作りの基盤となる「真鶴の海辺の基本的考え方」の策定に向けた議論を進めた。年度途中の町長の交代に伴う混乱があったため、ルール策定までは到達しなかったものの、真鶴町民、協議会員、役場職員等町全体の意見を集約した「真鶴の海辺の基本的考え方」を作成することができた。

【参加者の声】

- 地域の海辺の課題について、色々な立場の方々と共有できる場がありとてもよかった。
- 真鶴の海のリアルタイムの情報や他の分野の情報を知ることができてよかった。
- 課題の共有だけではなく、解決に向けた話し合いをすることができた

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はありません。



海まちらボ海トークでは、普段関わる機会の少ない海の研究者と参加者である地域住民とのディスカッションを通して、地域の海の魅力や課題について幅広い意見交換、情報交換を行うことができた。町全体として地域の海の持続可能利用に向け取り組んでいく上でも、身近な海の現状や、どのような研究が行われ、どのような結果が得られたのかということについて共有する良い機会となった。



これまでの真鶴の海辺の持続可能利用に向けた取り組みのまとめとしてシンポジウムを開催した。前半に基調講演として横浜国立大学臨海環境センターの下出教授、遠藤貝類博物館の栢沼学芸員、真鶴町漁業協同組合の朝倉一志氏に登壇いただき、地域の海の美しさこれまでの海の変化についてお話いただいた。後半は、新たに岩ダイビングセンターインストラクター田野陽大氏、真鶴町長小林伸行氏をパネラーに迎えパネルディスカッションを行った。立場の異なるそれぞれのパネラーや参加いただいた方々の真鶴の海に対する意見や今後の取り組みについて幅広いディスカッションを展開することができ、町全体として地域の海の持続可能利用に向け取り組んでいく気運を高めることができた。

【参加者の声】

- 海についての研究を行う際に社会的意義を持たせる必要あるのかなと感じました
- 改めて、海洋学の重要性、可能性を考えることができた。
- 相模湾真鶴の海は磯から深海まで様々な海の姿を見ることができる魅力的な場所であるということを改めて感じた。

3. 持続可能な海の学びと地域活性化

①【一般参加者向けイベントの開催】

- ・海まちらボ海さんぽ「ひものづくり&プランクトン観察」参加者：18人
場所：真鶴港/里海ベース 日程：10月28日
- ・海まちらボ海さんぽ「真鶴半島ネイチャーウォーク」参加者：13人
場所：遠藤貝類博物館/お林/三ツ石海岸 日程：2月18日
- ・海まちらボ海さんぽ「三ツ石海岸ビーチコーミング」参加者：18人
場所：三ツ石海岸 日程：3月3日

【活動内容・目的】

- 市内の自然を実感し、海利用のルールやSDGsの理解浸透を図る一般向けイベントを開催した。

②【観光客向け「磯の遊び方冊子」の作成、配布】

【活動内容・目的】

- 真鶴の海を訪れる観光客向けに、海での遊び方、注意事項等を記した冊子を作製し、博物館をはじめ公共施設等に配架し周知を行った。

③【地域のマルシェ・祭り等へブース出展】

- ・真鶴町豊漁豊作祭 11月11日 参加者数：412人
- ・なぶら市 2月25日 参加者数：91人

【活動内容・目的】

- 海辺の持続可能利用に向けた取組の一環として、海辺のルールや正しい海岸利用の呼びかけ周知を行った。

④【「海の学び」を基盤とした町内事業者による新規プロジェクト創出に向けた取組】

【活動内容・目的】

- 近年の海洋環境の変化に伴い、真鶴半島沿岸海域において、本来熱帯亜熱帯海域に生息するはずの造礁サンゴが非常に多くみられることが最近になりわかった。
- そこで、町内博物館、大学実習施設、NPO法人、漁業協同組合の協力を得て継続して調査を進めていくこととなった。将来的には、シュノーケリングやダイビングポイントとして開設し、漁業者等の新たな収入源として活用していくことも視野に入れ活動を進めていく。



ひものづくり体験&プランクトン観察では、真鶴の海を活用した体験イベントを通して、地域の産業である漁業に触れると共に、生態系の豊かさについて町内外に発信することができた。



三ツ石海岸ビーチコーミングでは、海岸に漂着する自然物から人工物まで様々なものを拾いながら、真鶴の地域の自然の移り変わりやマイクロプラスチック等の環境問題について学んだ。



博物館で取り組んでいる海辺の持続可能利用に向けた取組の周知を目的として町内の催しにブースを出展した。磯の生物のタッチプールや水槽展示などを通して、実物に触れながら真鶴の海の豊かさを知ってもらうと共に、海辺の利用ルールをはじめとして町全体で取り組んでいきたいテーマについて周知活動を行った。

【参加者の声】

- ポイ捨てをすると海に流れて魚が死んだり汚くなってしまうのでポイ捨てはやめようと思った。
- 海のゴミについて詳しく知ることができた。
- 実際に流れ着いたものを集めいろいろなものを見て触れたことがとても興味深い体験だった。

【事業全体のまとめ】

海辺の利用ルール策定に向けた協議の場として、「海を学び海に親しむ場づくり」協議会を開催し、博物館、町内漁協、NPO 法人、町役場をはじめとする真鶴の海に関わる事業者等の間で、真鶴の海辺の課題の情報共有及び解決に向けた話し合いを進めることができた。同時に、協議会で議論する議題について、町役場内ワーキンググループを開催し、役場内での意見交換及び海辺のルール作りに向けた取り組みについて浸透を図った。

昨年度作成した「真鶴海辺の基本的考え方（案）」の内容について、町民向けの講演会、シンポジウムの中で参加いただいた町民との意見交換を行った。参加した町民の多くから好評をいただくことができた。町役場内でもこの基本的考え方（案）についての意見聴取を目的としたアンケートを実施し、イベントで頂いた意見と合わせ、完成版の「真鶴の海辺の基本的考え方（案）」にまとめることができた。年度途中での町長の交代等、行政の混乱の影響を受け思うように進めることができなかった部分はあるが、来年度以降の真鶴の海辺の持続可能利用に向けた取り組みの基盤を整備することができた。3月に開催したシンポジウムを通して、海辺の持続可能利用に向けた取り組みについて、新町長からも前向きな意見をいただくことができたため、これからもスピード感を維持したまま進めていきたい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 横浜国立大学臨海環境センター	イベントの共催、協議会への参画等
2. 真鶴町漁業協同組合	講演会の講師、協議会への参画等
3. 岩ダイビングセンター	講演会の講師、協議会への参画等
4. 真鶴町役場	協議会への参画、研修の実施等
5. 真鶴町観光協会	協議会への参画等
6. 東京フリーダイビングクラブ	協議会への参画等

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 広報真鶴 11 月号	大人向け臨海実習を実施します！ 11 月 1 日
2. 広報真鶴 12 月号	「海まちらボ海トーク」を開催します！ 12 月 1 日
3. 広報真鶴 1 月号	「海まちらボ海トーク」を開催します！ 1 月 8 日
4. 広報真鶴 2 月号	海まちらボ「海さんぽ」を開催します！ 2 月 1 日
5. 広報真鶴 3 月号	シンポジウムを開催します！ 3 月 1 日
6. 博物館ホームページ	
7. 博物館 Instagram	

以上